

中国のセクシャルマイノリティ支援 — I

劉 強 (リュウ キョウ)
立命館大学大学院 人間科学研究科

自己紹介

私は現在、立命館大学大学院人間科学研究科の博士課程後期課程に在学しております。新型コロナウイルスの影響により、研究調査がうまくいかず、現在は在学を延長しながら、さまざまな方法を探り、論文作成を頑張っています。私の出身は中国の東北地方にあるハルビンと呼ばれる街が管轄する田舎です。私は二十歳までそこで勉強し、大学では日本語を専攻していました。家族の関係で、2014年に来日留学し、新潟、京都、大阪に住み、現在は関西にある大学に通いながら、東京に住んでいます。修士も現在と同じく、立命館大学大学院で研究し、中国の家庭内暴力事情について研究を行いました。現在はテーマを変え、中国人男性同性愛者の家族へのカミングアウトを中心に研究を取り組んでいます。

なぜ、カミングアウトについて研究を行うのか？

セクシャルマイノリティにとって、異性愛規範であるこの社会の中で、自分のセク

シャリティを打ち明けることは悩ましい。

打ち明けるとしたら、誰に、どこまで打ち明けるのか、打ち明けてしまうと何か不都合が起きるだろうかと不安はつきません。私もそのうちの一人でした。そこで、セクシャルマイノリティが自身について打ち明けるカミングアウトやその苦悩について研究したいと考えました。

また、中国は現在、セクシャルマイノリティの理解も少なく、カミングアウトのハードルが高いのが現状です。さらに、長年実施された一人っ子政策がそれに拍車をかけます。その政策、中国固有の価値観や文化が影響し、一人っ子であるがゆえに、家族に自分のセクシャルマイノリティを打ち明けることは自ずと困難になりました。もちろん、一人っ子であっても家族に自分のセクシャリティを告白し、家族から理解を得、自分が贈りたい生活を送れている人がいますが、誰にも言えず異性と結婚したり、一人で抱え込み、苦しんだ挙句、自殺を図った人も多くいます。また、家族にカミングアウトした結果、理解を得られず、転向治療を強いられ、残念なことに、精神科病院に送り出される

ケースもあります。このように中国では、依然として異性愛者でないことは、「罪」であるという認識が多分に残る社会です。中国でのセクシャルマイノリティへの理解を進めることはもちろん、彼ら彼女らは中国人家族の中でどのような存在で、その存在は何を意味するのか、カミングアウトに対する理解・受容は中国人家族においてどのように親子間の相互作用を通じて生じたのか、私は知りたいと思い研究を続けています。

なぜこの連載を書きたいと思うのか？

博士論文の研究調査を進めていくうちに、多様な経験やバックグラウンドを持つ方と出会えました。そのなかに、かつて転向治療を強いられましたが、現在はセクシャルマイノリティの権利のため、法的サポートを提供する人、同じ背景を持つセクシャルマイノリティに対してカウンセリング支援を提供する臨床心理士、セクシャルマイノリティに関する研究を行う学生と研究者、地域に根ざしてレズビアンやトランスジェンダーなどへ支援を行う女性たち、子どものカミングアウトのショックを乗り越え、現在はボランティアとして活躍される親、全国規模のセクシャルマイノリティ支援団体を創建し、その運営に力を尽くす主宰者、スタッフなど、多様な背景を持つ人がいます。さらに、彼/彼女らとの交流の中から、カミングアウトだけではなく、同性婚、代理母出産、偽装結婚、転向治療、同妻（トンチー）・

同夫（トンフー）（結婚相手に非異性愛者であることを伝えられず結婚された女性/男性のことを指す）、エイズ、不特定多数の交際・性交渉など、いくつかの非常にデリケートなテーマが浮かび上がりました。今日、各国でさまざまな運動のおかげで、セクシャルマイノリティコミュニティーが徐々に理解されつつありますが、国・地域によっては温度差があり、同じ国とはいえ、地方と都会の間にも認識や理解に差があります。このような多様なテーマや問題点を抱えるコミュニティのことにについて少しでも発信できればと思い、連載を始めました。私たちは国籍や宗教が違っていても、同じ青空の下で生活を営むセクシャルマイノリティとして、他国の事情を知ることによって自分の中にも新たな気づきも生まれます。そして、バイリンガルとして、外国の方に自国の状況を紹介できることは国際交流にもつながると思います。また、ここでの発信は博士論文の作成や今後の研究などに役に立つと感じています。

今後は、どのような内容を発信するのか？

タイトルで述べたように、今後は中国のセクシャルマイノリティ支援について、中国本土を中心に、マカオ、香港、台湾での支援状況をも紹介していきたいです。

実は、中国本土では、全国規模の支援団体があれば、ローカライズされた支援団体もあり、トータルで100以上の支援団体が

活動しています。これら100の団体を全て紹介することは難しいですが、個人的に繋がりのある団体を中心に、そこに所属するボランティアが家族内部で起きたカミングアウトに対して実際にどのような支援を提供しているのか、支援を提供する際のハプニングやストーリーなどを紹介する予定です。また、こちらの団体はどのように行政機関と連携をとり、研修会や研究会を行ったのか、日々はどのような活動を行なったのかをも紹介したいです。

次回は、私は現在、博士論文のご協力をしてくださった団体の成立、歴史、仕組み、活動内容について紹介する予定です。(続く)